



小栗外傳

周編



第四卷之

~13  
3919  
12



門 13  
號 3919  
卷 12

寒燈 小栗外傳卷之十



第十七編

東都

絳山戲編

妬婦忿死して妖崇と為と  
名馬苦辛して孤忠と為と

斯く美登小を所見万平が後殿を慕ひて走らんとす阿比川の辺にて  
追付其付小太郎声を揚げ人々皆止り候ひ之を幸のあはれとて  
叫かけし万平愕然として立ち去りて美登を尋るより先づ花見を後持小  
お蓋し河の中りて呼止む速く笑ふといはすけが小を郎美てしりたれ  
用われしこそ呼とめられ深く不審とすあはれとて今日とれるは花見  
我隠る必小尋ね候て殿を慕ふを知らぬ不図姫と疾争ひ姫を妬くあはれ  
ゆきの殿を怨むをまらむをては牙のうと鎌倉へ上ると言置り走り候

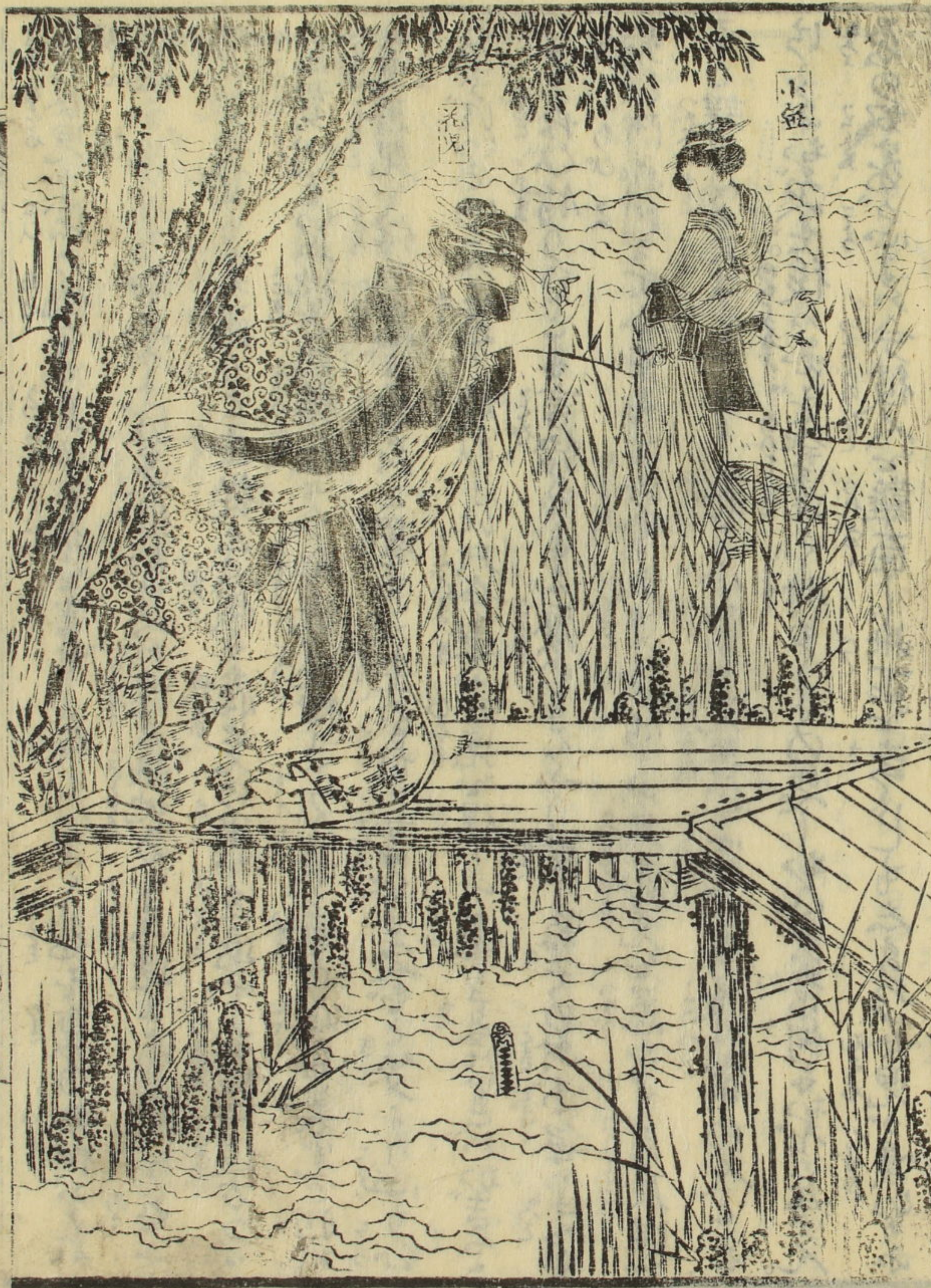
其まゝに申さるる事なれば、いと得失を説く為に、今此の申す所の如く、  
 父も母も、さうなれば、いふに、此の世に、母も父も、  
 望まぬ事、いふに、母の為に、害を、雨を、おんこが、暮らさず、  
 我殿、再び、還念、いふに、絶て、さうなれば、此の道理を、思惟、して、  
 あつた、我が、母も、父も、姫の、いと、殿は、いふに、たゞ、姫の、公解、を、  
 悪き、半宣、いふに、其か、く、肯、く、ら、悪き、いふに、付、前、刺、姫、の、  
 事、いふに、たゞ、一時の、意、事、池の、互、に、仇、を、おんこ、に、  
 の、と、いふに、答、は、泣、花、見、万平、いふに、さ、さ、み、出、候、いふに、相、い、ふ、及、び、も、つ、ね、  
 候、いふに、お、汝、い、ふに、欺、く、も、花、見、候、い、行、人、の、彼、後、候、水、の、月、連、中、  
 叶、ね、い、ふに、思、ひ、明、ら、め、く、去、ね、若、踏、躓、て、ほ、く、さ、ら、後、悔、い、候、  
 候、い、ふに、と、飽、ま、て、敷、死、罵、り、つ、美、堂、が、油、を、窺、ひ、て、腰、小、佩、を、  
 一、刀、を、抜、手、も、え、せ、と、切、舟、を、又、の、光、小、を、即、に、懸、き、さ、ら、身、を、め、し、刀、持、  
 候、万平、腕、を、入、て、外、と、投、足、下、に、踏、ま、て、い、ま、ま、れ、初、より、い、ま、ま、れ、  
 言語、を、和、め、道、理、を、説、諭、せ、と、も、耻、づ、け、と、此、事、初、小、及、ぶ、と、様、道、母、の、  
 白、痴、を、指、今、い、ふ、く、免、され、と、既、に、切、入、と、お、舟、踏、ま、下、足、の、ゆ、あ、み、  
 万平、い、ふに、と、才、を、脱、且、逃、走、と、い、ふ、に、お、仕、換、た、り、と、小、を、即、に、逸、  
 中、と、追、迫、る、お、忽、ち、途、を、失、ひ、く、前、さ、る、川、へ、指、こ、え、ら、り、小、を、舟、に、念、  
 ぞ、も、早、い、流、の、流、き、流、れ、し、と、お、有、ら、ね、再、び、生、き、も、め、い、ふ、に、  
 候、お、見、見、に、對、し、今、云、半、聽、ら、る、お、我、亦、と、も、い、ふ、に、  
 不、便、お、ら、る、も、万平、例、お、せ、んと、威、せ、と、も、何、と、も、回、意、に、言、語、さ、く、  
 居、ら、り、と、此、南、村、お、万、長、が、妻、の、小、毎、が、女、兒、の、小、栗、が、跡、を、慕、ひ、出、  
 候、お、身、さ、う、お、氣、づ、く、何、處、と、それ、と、布、を、襦、と、足、の、越、く、ま、う、  
 候、と、此、所、お、

其まゝに申さるる事なれば、いと得失を説く為に、今此の申す所の如く、  
 父も母も、さうなれば、いふに、此の世に、母も父も、  
 望まぬ事、いふに、母の為に、害を、雨を、おんこが、暮らさず、  
 我殿、再び、還念、いふに、絶て、さうなれば、此の道理を、思惟、して、  
 あつた、我が、母も、父も、姫の、いと、殿は、いふに、たゞ、姫の、公解、を、  
 悪き、半宣、いふに、其か、く、肯、く、ら、悪き、いふに、付、前、刺、姫、の、  
 事、いふに、たゞ、一時の、意、事、池の、互、に、仇、を、おんこ、に、  
 の、と、いふに、答、は、泣、花、見、万平、いふに、さ、さ、み、出、候、いふに、相、い、ふ、及、び、も、つ、ね、  
 候、いふに、お、汝、い、ふに、欺、く、も、花、見、候、い、行、人、の、彼、後、候、水、の、月、連、中、  
 叶、ね、い、ふに、思、ひ、明、ら、め、く、去、ね、若、踏、躓、て、ほ、く、さ、ら、後、悔、い、候、  
 候、い、ふに、と、飽、ま、て、敷、死、罵、り、つ、美、堂、が、油、を、窺、ひ、て、腰、小、佩、を、  
 一、刀、を、抜、手、も、え、せ、と、切、舟、を、又、の、光、小、を、即、に、懸、き、さ、ら、身、を、め、し、刀、持、  
 候、万平、腕、を、入、て、外、と、投、足、下、に、踏、ま、て、い、ま、ま、れ、初、より、い、ま、ま、れ、  
 言語、を、和、め、道、理、を、説、諭、せ、と、も、耻、づ、け、と、此、事、初、小、及、ぶ、と、様、道、母、の、  
 白、痴、を、指、今、い、ふ、く、免、され、と、既、に、切、入、と、お、舟、踏、ま、下、足、の、ゆ、あ、み、  
 万平、い、ふに、と、才、を、脱、且、逃、走、と、い、ふ、に、お、仕、換、た、り、と、小、を、即、に、逸、  
 中、と、追、迫、る、お、忽、ち、途、を、失、ひ、く、前、さ、る、川、へ、指、こ、え、ら、り、小、を、舟、に、念、  
 ぞ、も、早、い、流、の、流、き、流、れ、し、と、お、有、ら、ね、再、び、生、き、も、め、い、ふ、に、  
 候、お、見、見、に、對、し、今、云、半、聽、ら、る、お、我、亦、と、も、い、ふ、に、  
 不、便、お、ら、る、も、万平、例、お、せ、んと、威、せ、と、も、何、と、も、回、意、に、言、語、さ、く、  
 居、ら、り、と、此、南、村、お、万、長、が、妻、の、小、毎、が、女、兒、の、小、栗、が、跡、を、慕、ひ、出、  
 候、お、身、さ、う、お、氣、づ、く、何、處、と、それ、と、布、を、襦、と、足、の、越、く、ま、う、  
 候、と、此、所、お、



此は漏して云はく見見より対ひおて今日公の。主君二人とさぞや  
 ぞ憎と怨もておんえんが詮と怨の我殿とてくお殿らら女見公の  
 理かつもとてなれまて三馬の意申ひらあひまよく退して思惟人  
 助重君のゆり人せいの弱とやと好ら大平お思ふ殿の身よ勿やう及ぶ  
 こわれは是彼おひ赤て我りて任し様よ申て四代お生あつ侍女よ  
 了盤と数多の人よ給仕今この御様き憂ては昔語は彼へおとを樂  
 て侍多とつが花見も嬉しげお笑を合みて居たりとら。傍よりして母  
 小笹甲斐るは奴ががらとを聴たあひて嬉しくも女見と還らなまふ  
 かふる足下忠義もたつや命にりて且ま計了泉せはりま女見  
 か回ちなれくは憂く心よかけもして命おかり男のるいして悪らあ  
 るま此小長居る詮なき事互の三結合石なるらくく列下えん

とのち小を即実示り。重移て達あ互の士口ゆらびらととこ一人を  
 袂を分ち去り。斯く美登小を弟の小笹花見と別して定むかて  
 のし奉りも詳助重は聴くのねは小栗お付沈ぶとてえりお怒を我  
 万長が公根を措とるおる高買れりなま。利は明らか我は疎れ者  
 たり。郷は照天を買え倡妓おせんとせ。自掃を守りて命に従を  
 勢とりてせ命を失りんとるさぬとらに止とてお下婢おひ下し  
 役使て辛ぬおんせ。其苦難は堪へを彼よりて倡妓おるんとて成ら  
 ぞとらあ安お相違。よくお若辛を忍び居る。爾は前夜盗賊の  
 乃お集りては汝途おして足お救ひ二村山。忍に置るらつおしてお  
 久万平とて取戻さるく強に小介兄が孤忠の志を嗣は後。姫の  
 身を賤ひてお骨中の壁を在お。公地して已は利をた惜らつお入

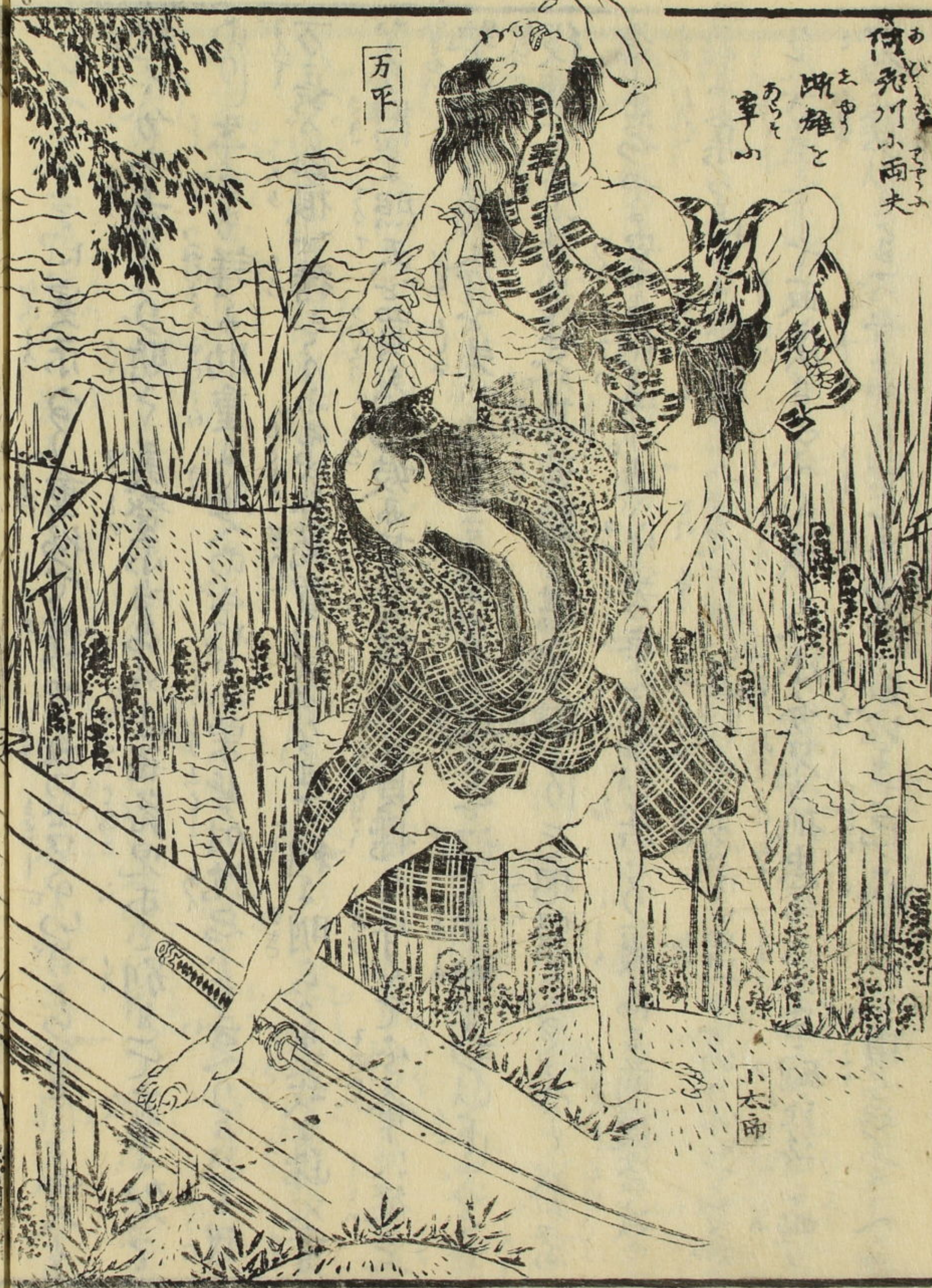


小笠

名況

小笠原

五



万平

何死川小南夫

雄と  
あらし  
軍山

小六郎

五

四



心も虎狼の毒も女兒も今日より志を改め。あつて想ひ新しき人。  
ある恐怖も人々も。その外の夫は言再びらんとす。も亦く。さし備ひて  
居りしや。あつて云出さば。宜くとも。兼て道理もあつて。めど。奴家  
熟く思惟つる。小栗が照天と忍びて。折く通る親の許し。さうなれ  
妻のたれ。定槽糠を棄てるの。信心より。なまを。本つた。さうなれ。思  
ひ。あつて。弁侍の。恩を。仇に。報ひ。まは。司馬長御と。やへ。宗隆を  
鑿く。あつて。故郷に。錦を。飾ひ。文君を。妻にして。生涯。棄て。唐土の古  
書も。もへ。ける。小栗が。戈の。長郷。勝つ。と。さ。とも。劣は。まは。覆水。盆。四  
も。あつて。後悔。を。し。ま。あ。ひ。と。言。活。を。そ。一。理。と。日。あ。て。再。再。四。跡。也。  
から。妻の。言。結の。道理。あ。れ。お。且。も。女。兒。が。身。と。氣。を。怒。の。心。を。翻。え。し。  
跡。も。ま。は。し。助。重。と。再。い。我。家。を。迎。ひ。と。り。照。天。は。又。復。き。の。人。を。阿。部。川。小

や。其。家。も。う。と。あ。り。形。が。ら。そ。の。主。に。居。る。と。あ。り。し。空。一。く。人。と。な。れ。  
還。り。斯。と。告。げ。れ。長。ま。好。の。案。は。相。違。り。呆。れ。り。花。兒。ハ。此。より。や。め。く。よ。り。も  
且。ハ。腹。立。且。と。泣。涙。の。中。に。想。ふ。や。う。な。れ。照。天。の。如。き。ふ。より。殿。と。又。亦。く。妹。脊  
を。断。ま。く。思。ふ。ふ。ら。あ。つ。て。あ。つ。は。は。は。は。も。又。我。殿。も。は。へ。が。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。  
拳。勃。つ。照。天。好。も。奴。家。が。身。も。契。り。ハ。あ。つ。た。間。を。法。を。照。天。が。色。香。を。愛  
め。ひ。此。身。ハ。秋。の。扇。と。し。り。捨。て。ら。れ。ぬ。日。に。も。今日。す。で。も。優。恤。と  
あ。つ。た。人。形。が。ら。今。の。う。さ。く。いと。憎。し。く。や。何。れ。も。忍。ぶ。と。も。我。一。念。の。惡。鬼  
と。も。靴。と。も。な。り。此。恨。を。暗。さ。て。身。を。あ。つ。き。と。嗔。恚。の。心。火。ハ。胸。を。焦。し。物。狂  
か。く。嘆。き。し。が。逐。小。病。と。な。り。あ。つ。た。足。より。して。何。年。も。ま。う。懶。し。と。聞。お  
而。己。ハ。移。居。と。父。母。あ。つ。た。相。え。ら。れ。と。を。厭。ひ。し。が。后。身。飯。を。う。か。食。わ。れ  
好。き。病。疾。あ。つ。た。と。れ。と。嫉。妬。日。々。や。ま。し。と。苦。し。れ。あ。つ。た。と。暗。く。んと。



小夜更人の声と結露を掛し庭の池も水と浸しと恐怖も世の中にあると向くは荒れ折葉を付けてやせぬ夫神明の善母福悪禍  
 なるふと早く此車虚かたどの奴が願するを愛慾猶受すませ奴水  
 小栗も配遇せよ。代し心を持たず守つて仕下照天といふ姪女も夫  
 痛きやうに仰き怒り。不義非道とるを照天が命と縮まじも我此を念  
 と時けり。あゝ此身は死と様なき沈み幾許の苦難を受るとも聊歎ひ  
 ぬしと丹誠を凝して祈るに長妻帰らば知らずと女児が病疾も小栗が  
 行急知れざるを思ひ辱してのりなむと只顧小栗が去向と素りの却説  
 這裡小栗も従軍の里と退糸貫川へ移住密に鎌倉の光景は  
 窺ふも尚いまだ仇討の便宜あり候此も空しく光陰を送りぬれぬ  
 時と秋よりなり。一夜あそび遊りてとく淋しうは愁されぬ秋の  
 悲しきあそびひかる中。小栗夫婦の昔目度身は有りて流者れぬお  
 めん形も家と父と死にひる今夢を渡りて去りてとるぬがちのたそひ  
 堪へ送る光陰も穿く過りの所仇を報ひしうもなれ方の壽命を嘆  
 け夫婦を流りぬし思ふと時をさやと秋の夜という更闇く丑  
 満比とある所一陣の風吹落て枝をばたふ村雨の音もささくせえか  
 何と云ふ物哀しく。それもあるらで身の毛も立ち込らぬ時と油の  
 燈火の消えんとて又明き火の影もさし傍をえれば昔れ夢交あり  
 色も音もなき小女子が教俯けて居りける夫婦怪しき着一着もこれ  
 何も奈何と見たり。照天のさるも氣も消えてあまやとさるのいひさし  
 夜の睡寝とひき被れ臥し伏し戦く居る小栗の声を励し海奈何なる故  
 をりておぼろも只さる夜更であらぬ事知る縁故と結れといれしけり



戴くる仇を報ゆる身よりちてさへ心弱くして宿志を遂へ、是れ本心  
 公雄に持身と勵されて照天無雙もと公の事とせと尚も先見の死を  
 憐みせめて未事を助ると守奉るの祝言はさらにもその外の公  
 香花 読経し只願後世の冥福を祈るを殊勝なれか、是れ後  
 先見の怨も失はるもや再び怪むともなく一月のまのもさふれ不在話下  
 再説美登小助小栗の命を寫しこゝに在國へ下りなれと豫て主命を  
 願望し身を多く小贖為る池の庄司を始め後友風間加藤おのくと  
 捜索て主命を傳ふ此們をそせ世甲斐のて与力同業のりのを多く  
 語らひけるおのりさ一色と先年小栗主従者沢さふおめて落命あつと  
 偽り信とかりの今の戒心するてもう近日下総の正領下はすをせしうが  
 早く主君と降下し与力の輩と供し不意に發起と一色と討とんと滅と

夫婦別居小  
 怪と見



西の山

尚射しぬ人々を幸の射し小女は急ぎ立還り此のまはへおげく東にお  
 下りまこと後傳促さるるも小女勇まむひ速お立還り小栗は初と  
 告ぐは夫婦の喜び辟きつる物ありはしてりんと議するが助主照天  
 小對し我く夫婦はもに下ら相模武義のうち共横山が下下満く  
 されはつらぬ心おもえ替らるることもあはれよりてまら某のま前下り  
 町業のうちと携み迎を越して北國の助より傳ははつと七卷用人が  
 加されては妨ぎし我一人のみ行がえ替らるることもあはれ小女小を町業の  
 ころ居て我近をまこと行て娘を誘ひしと細こと議しはく  
 こそ身の例の鬼研の駒うちまお強くも只軍騎東國はして急ぎしお  
 馬の名もあな名もるる乗人の園東ふら二とも下らぬまへあはれ日ありは  
 とも箱根山と著あはるるそもく此箱根山とありは伊豆の國のうちあり

まらうて峻岬き深山に覆れは鬼魅妖獸は多くは奇怪ありそ中  
 三途川をよとよめ何地獄は地獄と稱する亦多し夜はなは罪人の所  
 責も達と注叫声もあはれ且山賊あり悪獸ありて夜を必とせし  
 旅人と悩むれば人恐怖はて我行をせし小栗は人目と尋あはるる人  
 心急る旅路なればまらるる夜は旅途といそぎはあはれ此地は  
 往過何れ季秋廿日この初文とてはまら當時秋の空つせし小液雨さ  
 もあり出まら星の影もみ果も怒るも亦は暗夜も岩石凸凹も  
 山往をり一歩も過失が勿ち千仞の谷も移びぬむありありはく  
 一ともし止るも止るも傍の古樹の下も下りて雨の晴るも行るも  
 ことおやれ左側も雨も散雲も霽るも下法の月の漸く小東の  
 影もさし昇るも小栗はむらむら往人とせし今れ雨も夜のらら

濡らふ。乾さす。思へど。焚んと。され。柴も。なく。湯付。踏踏。居る。小。年。紀  
 十二。と。も。や。り。ぬ。と。お。ほ。了。髪。の。も。文。箱。を。持。つ。る。只。一。人。兼。の。方  
 より。歩。み。可。ま。む。小。栗。不。審。も。あ。や。う。夜。も。と。も。二。更。と。お。か。し。ら。い。り。ぬ  
 の。ぞ。二。人。と。此。山。中。を。歩。ま。れ。ど。これ。や。懸。て。及。小。此。山。の。彼。地。獄。小  
 隨。落。せ。幽。魂。う。ら。何。半。と。さ。ら。ん。と。馬。を。笛。め。て。窺。ふ。か。の。了。髪  
 近。歩。と。小。栗。お。對。ひ。さ。り。の。た。は。ぬ。奴。家。の。彼。方。な。は。家。に。さ。ら。ん。と。の  
 なる。が。今。夜。主。の。命。よ。り。麓。お。ま。り。ぬ。ひ。は。る。が。途。中。で。雨。お。懸。ま。れ。て  
 便。し。く。ぬ。人。ま。る。後。さ。い。と。幸。し。と。御。や。小。此。山。を。歸。り。ま。し。れ。ど。も。か。る  
 山。路。の。恐。ろ。く。歩。を。悩。ま。ぬ。宜。所。で。不。意。逢。ま。わ。し。ら。ぬ。懸。ま。り。ぬ。あ。れ  
 送。り。な。ま。ら。せ。や。と。理。か。く。お。み。ま。と。ぬ。れ。小。栗。怪。し。く。思。へ。ど。も。弱。ま。り。ぬ。さ。が  
 恐。ろ。と。心。よ。げ。お。諾。ひ。ぬ。望。ま。ぬ。ま。じ。は。り。ぬ。導。引。せ。よ。と。前。を。せ。馬。を。静。め。て

後。背。よ。り。行。ゆ。僕。二。丁。を。り。し。て。一。望。の。林。の。下。到。り。ぬ。其。射。了。髪。故。て  
 い。小。此。林。の。裡。な。る。家。こ。と。主。の。家。を。信。る。こ。ろ。さ。送。り。終。ひ。ら。思。を。報。ひ  
 ら。ん。と。き。ふ。ま。入。り。ぬ。湯。を。衣。を。乾。し。ぬ。と。懸。り。止。む。れ。小。栗。の。裡。小  
 女。こ。ら。小。女。と。い。ぬ。妖。魔。と。思。ひ。に。此。山。を。尋。ね。何。の。怪。し。み。も。な。し。  
 白。波。緑。林。の。徒。お。役。使。甘。み。ゆ。り。の。母。あ。ら。ぬ。必。隠。道。の。人。再。仕。方。り。方。な。り。  
 の。ま。れ。と。よ。り。還。る。臆。し。ぬ。は。似。し。ら。何。程。の。り。う。あ。る。べ。し。其。実。否。を。知。り。  
 且。も。雨。お。濡。ら。う。衣。を。も。乾。め。と。言。語。を。和。め。さ。る。ふ。く。信。ん。宜。ふ。ま。ま。し。湯。付  
 休。む。ひ。そ。内。お。湯。を。ぬ。衣。を。も。乾。さ。ぬ。此。山。主。お。ま。へ。て。よ。と。い。ぬ。小。女。の  
 懸。ひ。く。湯。付。此。山。の。林。の。裡。小。栗。の。下。に。一。個。の。此。木。門。の。下。に。す。ま。り。  
 お。の。れ。ぬ。眞。ま。り。お。走。り。ぬ。小。栗。の。馬。より。下。り。其。中。の。解。と。宣。規。も。母。部  
 老。尹。が。ん。ど。の。ま。る。尋。常。さ。ら。ぬ。ゆ。あ。る。人。の。世。を。逃。れ。此。山。里。に。お。ま。り



山敷行も遭ふて感謝を述べぬは... 鬼魅の幾行路も居るとして旅人の... 今夜の此家も止宿... 小栗少く... 涙の淵に沈むと重き... 十四

山敷行

十四

幾日ものあがたれぬ。いとくも世を去りて死出の旅路お尋ね行ど公々  
 今世お止まりて得るも中々ね悲しき下されども思ふ念力の今月を夜叶ひ  
 びく殿を此所へひきはしる。今より奴家とりあともい冥府へ入りあやと  
 小栗の結ぶ取らり流海をて怨とわい助重前刺より手と又た双眼  
 閑居る。が果て後目を困れ嗚呼浅猿見よの照天へまよより  
 親くの許嫁せ。我妻なり。そこよ縁の仮初は結びも果ね間そしこそを  
 弁へどうくふ照天姫を怒す。思ひもて我と身を失ひはる。ことごと  
 鈍し愚ありたれくも。死していとも明けと供えつる。とある。今云  
 實へる道理をよく聞くとく迷ひと暗し。成佛得脱せよ。と云はれ見の  
 親より上怨め。とあうらえら。照天姫もあうら存の得しを得る。は  
 縁や。あら奴家も同。半なるふ。笑えぬとを宣あぞ。笑へる。処は  
 奴家。が。壁言。只今殿を闇王の廳へ侍ひ此を。明まうさん。いさ。め。入  
 と。ま。さ。り。伴。ひ。行。ん。と。と。小。栗。さ。の。ま。と。振。放。ち。最。多。り。し。く。ま。ぐ。ふ  
 言語と。そし。諭。せ。ども。耻。し。め。ぬ。愚。人。う。お。我。も。と。你。も。宿。志。あり。汝  
 奈何。妖。崇。と。とも。忠。孝。義。膽。の。利。刀。と。り。切。拂。へ。て。や。お。く。を。え。と。腰。刀。と  
 抜。手。も。え。せ。と。と。向。ひ。て。斬。は。れ。ぬ。荒。見。が。汝。も。勿。心。然。と。燈。火。な。ん。と。火  
 消。く。跡。も。残。さ。と。失。お。り。小。栗。を。念。と。云。は。れ。る。元。右。と。い。ま。さ。と。云。何  
 今。ま。の。り。は。る。待。女。ホ。家。居。も。も。に。流。く。と。霜。の。朝。白。に。ぬ。ぬ。消。て。の  
 跡。に。破。れ。と。古。過。堂。の。裡。に。お。ま。る。夢。に。心。地。と。呆。然。と。して。居。り。し。が  
 此。時。我。既。し。明。人。と。し。山。端。を。い。は。れ。ぬ。に。ぢ。り。て。心。已。し。歸。し。思。惟。に。惜  
 前。の。夜。も。亡。魂。の。糸。汗。お。ま。る。憶。ま。せ。り。今。ま。斯。く。奇。怪。の。逢。湊。足  
 申。斐。ら。き。公。ゆ。え。妖。魔。の。為。く。慢。く。は。女。も。尚。劣。ま。り。と。我。と。已。と。恥。し。

幾日ものあがたれぬ。いとくも世を去りて死出の旅路お尋ね行ど公々  
 今世お止まりて得るも中々ね悲しき下されども思ふ念力の今月を夜叶ひ  
 びく殿を此所へひきはしる。今より奴家とりあともい冥府へ入りあやと  
 小栗の結ぶ取らり流海をて怨とわい助重前刺より手と又た双眼  
 閑居る。が果て後目を困れ嗚呼浅猿見よの照天へまよより  
 親くの許嫁せ。我妻なり。そこよ縁の仮初は結びも果ね間そしこそを  
 弁へどうくふ照天姫を怒す。思ひもて我と身を失ひはる。ことごと  
 鈍し愚ありたれくも。死していとも明けと供えつる。とある。今云  
 實へる道理をよく聞くとく迷ひと暗し。成佛得脱せよ。と云はれ見の  
 親より上怨め。とあうらえら。照天姫もあうら存の得しを得る。は  
 縁や。あら奴家も同。半なるふ。笑えぬとを宣あぞ。笑へる。処は  
 奴家。が。壁言。只今殿を闇王の廳へ侍ひ此を。明まうさん。いさ。め。入  
 と。ま。さ。り。伴。ひ。行。ん。と。と。小。栗。さ。の。ま。と。振。放。ち。最。多。り。し。く。ま。ぐ。ふ  
 言語と。そし。諭。せ。ども。耻。し。め。ぬ。愚。人。う。お。我。も。と。你。も。宿。志。あり。汝  
 奈何。妖。崇。と。とも。忠。孝。義。膽。の。利。刀。と。り。切。拂。へ。て。や。お。く。を。え。と。腰。刀。と  
 抜。手。も。え。せ。と。と。向。ひ。て。斬。は。れ。ぬ。荒。見。が。汝。も。勿。心。然。と。燈。火。な。ん。と。火  
 消。く。跡。も。残。さ。と。失。お。り。小。栗。を。念。と。云。は。れ。る。元。右。と。い。ま。さ。と。云。何  
 今。ま。の。り。は。る。待。女。ホ。家。居。も。も。に。流。く。と。霜。の。朝。白。に。ぬ。ぬ。消。て。の  
 跡。に。破。れ。と。古。過。堂。の。裡。に。お。ま。る。夢。に。心。地。と。呆。然。と。して。居。り。し。が  
 此。時。我。既。し。明。人。と。し。山。端。を。い。は。れ。ぬ。に。ぢ。り。て。心。已。し。歸。し。思。惟。に。惜  
 前。の。夜。も。亡。魂。の。糸。汗。お。ま。る。憶。ま。せ。り。今。ま。斯。く。奇。怪。の。逢。湊。足  
 申。斐。ら。き。公。ゆ。え。妖。魔。の。為。く。慢。く。は。女。も。尚。劣。ま。り。と。我。と。已。と。恥。し。





小栗

小栗助重

函嶺

怪異

遭

只願慙愧とて尚府朝霧晴る山の下方何とも定るや弁とて由五  
 十人の一群が這裡とはして事りしえ。公の命を伸上の熱く着るべきの  
 扮打山賊やまきくは光景中。公に替られて悪うと走るとしく鬼研と  
 搜索よりし中。二十歩彼方なる一村立てる枝の林は藪の苗くわりのうを  
 公は必走奇を慌忙くうらやあらむを傾け馳去んとする。彼一群間近く  
 寄る。差の裡より秀一とて横山安秀が山賊本を俱してする。わておで  
 けや。小栗これとて此老賊亦本夫婦が仇なれば。此地に遇ておで討る  
 公を思ひしが。又思ふ。我の色といふ大敵あり。これを討る。則ち我身  
 形も亦公に任せ。寡の衆小敵せと。今我の單騎を彼に數十人  
 と従ふ。戦と過失の悔とも詮らる。七ゆまれ老賊も入替ら。是れと  
 差と傾け馬と早め。横山と行遠て。こころを横山とて目送り。公と  
 不審なるおのりし。左右と顧。只今此正とて去り。旅人があり。馬に我少く  
 面赤あり。これや。旅人を不審とれ。苗めよと下知され。必りぬと山賊も。  
 声く。や。旅人云。きこ。あ。止り。福と。呼ば。後背より追々。後れ。事。  
 山賊も。これと。る。縁故の如く。小栗の馬前を。脱。止。せ。止。め  
 たり。小栗これを入言。も。鞭と。揚。馬を。躍。らせ。對。ひ。山賊も。や。系  
 かけ。負。鬼。驕。荒。牛。一。聲。荒。ふ。足。踏。を。極。怒。り。及。對。え。る。  
 人を。唾。と。蹴。倒。し。從。撲。ま。そ。ね。ひ。走。り。山。賊。も。恐。怖。と。近。き。り。の。り  
 たり。け。横。山。安。秀。首。より。此。光。景。を。窺。ひ。見。此。馬。は。これ。鬼。驕。多。る。年。  
 小栗云。后。その。行。跡。を。知。る。の。り。今。此。処。で。足。を。と。れ。今。馬。を。系。  
 旅人の死せ。公の仇。めて。小栗。公。の。人。と。ら。爾。の。れ。我。は。公。の。仇。今  
 除く。後。大。なる。害。め。ら。んと。下。と。扇。は。嗚。呼。云。甲。斐。さ。る。女。の。ご。も。か。

てふのまららるるをりて。射多らむと下知れば。後山城も是れ  
 中く力を得れば。腰辺に佩りし半弓をりて取囲之散く。射り  
 多。亦も馬も猛り。と西より撃れ。前矢の敵對するも。あつて。亦  
 戦と好まされ。一道の生路を求めて走り。忽ち狭き谷間に出る。此に至て  
 賊も追つたなり。此よりして麓に出る。馬とせ。行はる。前途大き  
 中なれば。池のりて。中溜くと煙。上る音。谷神の響。正人の泣。喚が  
 声。小彷彿。小栗。これら。此山は温泉の。きり。硫黄。あつた。人  
 爾れ。此水中。ゆも硫黄。あつて。常。火。燒。ゆ。りて。水。自。ら。熱。湯。と。な。る。る。ん  
 世。昔。より。此山。は。焦。熱。地。獄。の。り。と。云。ふ。こ。れ。ら。の。こ。と。を。云。ふ。と。と。踏。踏。地  
 小。猛。然。と。側。由。高。き。岩。上。より。走。雷。の。こ。と。を。響。音。と。云。ふ。上。り。換。湯。湯。候。不  
 沸。出。り。鬼。押。と。い。ふ。影。を。飛。あ。り。一。散。れ。地。牛。が。奈。何。と。う。踏。換。え。熱。湯。の

池。此。池。と。い。ふ。り。小。栗。ゆ。と。も。子。綱。と。操。り。と。ある。岩。の上。に。躍。揚。り。と。云。ふ。る  
 心。の。熱。湯。も。射。射。も。入。り。こ。な。れ。ば。馬。も。身。も。皮。破。れ。肉。爛。痛。た。が。ら。い。  
 少。も。動。く。と。社。と。小。栗。心。猛。り。と。い。ふ。今。ら。ゆ。と。も。泣。き。入。り。日。は。は。ら。さ。る  
 祝。考。ふ。今。日。の。難。と。救。り。せ。ま。と。心。中。に。念。は。け。鬼。押。に。對。ひ。て。云。ひ。多。ら。む。汝。を  
 世。の。類。ひ。に。名。を。る。ら。れ。ば。今。い。ふ。と。と。耻。づ。け。よ。今。日。不。老。此。終。に。遇。て。命。の。危  
 子。新。く。死。も。せ。徒。死。中。て。汚。名。を。永。く。残。さ。す。い。ふ。を。念。の。ゆ。ゆ。と。昔  
 劉。先。主。の。的。盧。馬。に。至。と。助。けて。芳。名。今。昔。著。汝。死。と。辞。せ。と。我。と。救。て。人。里。に  
 出。る。周。運。の。射。至。ら。ば。馬。に。祝。音。と。崇。の。美。泉。を。見。ゆ。ら。し。め。今。世。の。美。名。と。輝  
 さ。と。と。人。に。對。て。言。ふ。と。執。心。と。は。メ。へ。ら。實。も。各。各。の。こ。と。な。れ。ば。此。言。と。や  
 能。く。人。死。ぬ。べ。う。と。鬼。押。の。俄。然。と。して。勢。を。生。下。鞍。を。加。へ。る。不。躍。揚。り。  
 矢。を。射。り。て。池。を。一。が。サ。丁。を。う。り。出。て。勢。を。か。つ。と。倒。れ。て。死。て。久。足。則。此。亦。



長柄長者賞塚

六冊

繪本一休譚

六冊

三三三間堂  
棟技奇傳 柳り糸

五冊

河内編り糸

六冊

河内木綿團七編

五冊

三竹  
天駿 檀風物語

五冊

小説峯の吹雪

五冊

信本發切傳

六冊

推八  
小紫 毎双いせ語

五冊

中将姫一代記

平入  
重入 五冊

繪本浪華男

五冊

同本行状記

行々  
七 冊

咎語波の露

六冊

一休いせ語

証入  
義本 三冊

繪本羽衣譚

六冊

新吟笑の友

五冊

報仇親子墳

六冊

ほろこ棒の川

五冊

孝子  
美談 唐かき後

六冊

花街司依解

二冊

繪本雪鏡談

十冊

新編女水滸傳

六冊

同二嶋垣男記

十冊

繪本孝女誓

三冊

同 龜山話

十冊

同 鮎の腹帯

三冊

同 沉香亭

十冊

新撰勸進噺

五冊

小野小町一代記

六冊

廓中掃除

五冊

鏡山列女功

五冊

教訓いせ語

初篇  
二篇  
三篇 各十冊

復讐琴松譚

六冊

同 やまい州

初篇  
二篇 各三冊

同 武逸談

三冊

同 かきい州

二冊

阿波の鳴門

六冊

釋迦八相物語

合巻 五冊

源午漆合州

五冊

同 一代記

二冊

